大阪府都市基盤施設維持管理技術審議会

資料３

平成26年度　第1回全体検討部会　議事概要（未定稿）

日時：平成26年5月30日 15:00～17:30

場所：大阪府庁　新別館　北館　多目的ホール4階

出席者：鎌田部会長、貝戸委員、長尾委員、山口委員

議事内容：

１．平成25年度第2回幹事会・第4回全体検討部会の議事録の確認

２．各分野部会の報告

３．戦略的維持管理の推進（基本方針）の検討

４．平成26年度のスケジュール（案）について

１．平成25年度第2回幹事会・第4回全体検討部会の議事録の確認

平成25年度第2回幹事会・第4回全体検討部会の議事録の確認を行った。

２．各分野部会の報告

山口委員より道路・橋梁等部会、長尾委員より河川・港湾・公園部会、鎌田全体検討部会長より下水等設備部会の検討状況について報告。

３．戦略的維持管理の推進（基本方針）の検討

事務局より、基本方針たたき台に基づき説明

*1章～3章に関して*

・本計画の対象期間の10年間の根拠は何か。

⇒国の長寿命化計画（10年間）との関係もあるが、計画期間を設定しなければ、計画の目標設定がし難いので目安として10年と設定。より具体内容となる事業室・課あるいは事業所での行動計画においては、社会状況の変化への柔軟な対応を見越して、より短いスパンで見直しを図っていく予定。

・現状、課題認識を記載する部分では、これまで議論してきた課題をもっとインパクトある形で示す方が効果的ではないか。例えば、維持管理は高度な技術力を要するが、技術者の減少などから、なかなか日々の中で技術力を高めていく仕組みが確立できていない。

・P17の徒歩パトロール発見件数について、H22年度のデータ（発見0件）は不要ではないか。

*～4.2.1章に関して*

・維持管理＝点検という印象を受ける。点検の結果をどう活用していくのか、評価・診断をどうするのか、についても説明を充実させていく必要があるのではないか。

・前指摘の通り、点検についての分量が多く、偏りがあるように見える。P44の維持管理の全体のフローをはじめに示し、各論をバランスよく説明するのがよい。

・点検データと補修データを有機的に結び付けて維持管理に繋げるということが見えにくい。部会で出された意見を漏れなく反映できているかの確認をお願いしたい。

・また、点検の分類に示される点検内容が分野ごとに達成できているのかを各分野部会で確認する必要がある。河川であれば、簡易点検でなく巡視程度しかできていないのではないか。

・点検データは集計結果のみ残っている場合が多く、補修データと点検データを対比することができない場合が多い。データの活用において後に不具合を生じるかもしれないので、補修履歴がどのような単位で残っているのか、これに対応して、どのような形で点検データが残っているのかの確認をしておく必要がある。

*～4.2.3章に関して*

**○管理水準について**

・管理水準について確認。限界管理水準は、法令で決められているのか、独自に設定するものなのか。管理水準は、何に対して決めるのかを明示する必要がある。例えば使用性、耐久性、許容応力を超えたら水準なのか。

⇒分野施設ごとに異なり、法令で示されるものとそうでないものもあるが、第一に安全性で考えている。

・法令でいくと許容応力なので、かなり安全側となる。

⇒イメージとしては使用限界に近いですが、定量的な示し方が難しいと考える。

・管理水準にもつイメージが、分野間で様々である。構造物によっては、使用限界の話をしているし終局限界に近いところをイメージしているかもしれない。

そのまま議論が進むと後で横並びの話がし難いので、各部会で議論を進めるうえではある程度イメージを共有できるような進め方を考える必要がある。

・管理水準の設定の前提となる要求性能が、何であるのかを、分野部会で意見収集しながら、議論を進めていく必要がある

**○性能曲線、LCCについて**

・性能劣化曲線に示す補修効果では、性能回復ばかりがあるが、劣化の抑制してくれる補修もある。

・LCCの定義を明確にするべき。

・LCCのイメージ図はどこからか引用したものか。分かりやすくする必要がある。

⇒従来からアクションプログラムでも示している図であるが、分かりやすく修正する。

**○重点化指標について**

・発生確率は一定イメージがわかるものであるが、社会的影響については、どのように設定するのかを各分野部会で確認していただく必要がある。

・重みを一定にする目的でP69の縦軸発生確率・横軸社会的影響度の概念図があると思うが、P70は縦横の掛け算ではないので「掛け算＝優先度」という表現ではなく「総合的に優先度を判断」程度の表現にした方がよい。

・リスクを分野施設ごとに定量的に示すことが難しいので、たたき台の通り、社会的影響度の各要素がどのカテゴリーに属するのかを分野ごとに整理するという方向でよい。

*～4.2.6章に関して*

・パトロールの話が、4.2.4の前に4.2.1にも示されているが、前半と後半で分かれている趣旨は何か。流れが分かりにくい。

・当初の目次に引きずられているかもしれないので、再度全体の見直したほうが良い。

・P73特別パトロールに、苦情対応は含まれていないのか。

⇒特別パトロールは、梅雨時にのり面を重点的に行っていく、というイメージ。苦情対応は、日常のパトロールの中で完結している。P74ではこのように整理しているが、P74(2)維持管理・修繕作業の説明の「等」に含まれるので、説明を明確にしていく。

・パトロールによる職員の負担が大きいと思われるので、達成可能なのか。

*4.3章に関して*

・コストはどのような資料に使っていくのか。

⇒本計画に係るコスト把握とともに、対外の行政計画の説明資料として用いる。

・P87の経費の分類については、非常に興味深い。このカテゴリーは、今回設定したのか。

⇒維持管理費用を、なるべくわかりやすい形で把握できるよう、今回細分化した。予算費目は別途ある。

・経費の中でも増減の激しいものがあったり、比較的安定しているものがあったりするのだと思う。変動の激しいコストは対外的に説明が必要になってくるし、後者は、経常的な必要経費であるということは想像に容易なので、毎回の説明は必要ないものと考えられる。マネージメントの濃淡を把握する上で、経費の分類は重要と考えられる。

*4.4章に関して*

・短期的にマイスターが技術継承をして、中長期的にスペシャリストがコアとなるのは、むしろ逆ではないか。スペシャリストを養成するのには非常に時間がかかるので、短期的にも今から着実に養成を開始していかなければならない。また、マイスターについては、どういう人をマイスターとして認定するのか、マイスターはどのようなことをするのかを具体的に示すべきではないか。マイスターの漫然と講師をやるだけでは、効果が望めない。

４．今後のスケジュールについて

・基本方針たたき台について、以下の分担で6月の中旬までに査読いただき、事務局まで連絡していただく。7月の初に次回を予定する。

（分担）

木元委員：P1～P37

貝戸委員：P38～P54、P73～P81、P99～P100

山口委員：P55～P68、P82、P94～P98

長尾委員：P69～P72、P83～P93